



保育所と学童保育の連携による  
**学齢期の成長を  
見据えた保育**

利用保護  
者調査と  
実践事例



社会福祉法人  
東京都社会福祉協議会

(就学前から学齢期への移行期 子ども・子育て支援プロジェクト)

## はじめに

本会では、平成 25 年度からの第 3 期 東社協 3 か年計画の重点事業の一つとして、「学齢期までを見据えた子ども・子育て支援の構築」に取り組んでまいりました。平成 27 年度からスタートする子ども・子育て支援新制度では、「地域子ども・子育て支援事業」の一つに「放課後児童健全育成事業」を位置付け、放課後児童クラブ（学童保育）は市町村の関わりを強化して質・量とも充実を図ることがめざされています。平成 26 年 7 月には文部科学省と厚生労働省は「放課後子ども総合プラン」を発表し、「いわゆる『小 1 の壁』」を打破するために、「放課後児童クラブ」と全児童を対象に放課後の学習や体験・交流を行う「放課後子供教室」を市町村が「放課後クラブ」と一体的または連携して整備していくことをめざしています。

保育所待機児問題を契機に保育所定員を大幅に増やしてきた年齢層が間もなく学齢期を迎えます。そうした中、就学前の保育所と学齢期の学童保育は、残念ながら、地域において両者の連携は十分でないのが現状です。さらに、こうした流れの中で、保育所・幼稚園・小学校の連携が求められ、就学前の幼児教育の充実にも取り組まれているところです。一方、親が就労する世帯の子どもに着目した就学前の保育を学齢期にどのように移行させていくかの議論は不十分となっています。

こうしたことから、本会では平成 25 年度に本会として初めて都内学童保育の実態調査を実施し、平成 26 年 2 月にその結果を『都内の学童保育の状況』としてまとめました。さらに、保育所と学童保育の連携のあり方を検討すべく、平成 26 年 9 月には「就学前から学齢期への移行期 子ども・子育て支援プロジェクト」を設置しました。同プロジェクトには、保育所と小学校との連携のあり方を検討している本会保育部会調査研究委員会、東京都学童保育連絡協議会、三多摩学童保育連絡協議会から委員の参画を得るとともに、学齢期の地域の子育て支援に対して地域住民の参加を得ていくことを視野に入れて、区市町村社協部会からも委員に参加してもらいました。そして、平成 26 年 10 月には都内区市町村と学童保育の協力を得て、就学前に保育所等を利用していた小学校 1・2 年生を対象とした「学童保育の利用保護者アンケート」を実施しました。さらには、地域において学童保育の連携に取り組む都内 4 つの実践事例をヒアリングしました。

プロジェクトでは、学齢期への円滑な移行におけるいわゆる「小 1 の壁」を保育の視点からどう乗り越えていくかを検討する中で、さらに先の成長を見据えた「小 4 の壁（10 歳の壁）」の存在を指摘する意見もありました。この「小 4 の壁」は、学校カリキュラムが「考える力」にシフトしていく時期に当たりますが、生活面においても複雑な友だち関係など自分の周りの問題を自らの力で解決していく力が求められる時期となっています。就学後、10 歳に豊かに成長してくことを見据えた保育の実践を考える時、「小 1 の壁」をただ問題なく通り過ぎることだけが目標ではなく、就学前に遂げてきた一人ひとりの成長をいかに支え続けていけるかが大切になってきそうです。

本書では、アンケート結果による学齢期への移行期を過ごした 1,011 人の貴重な体験を紹介させていただいています。今後、子ども・子育て支援新制度がスタートする中で、地域の子どもが豊かに育っていけるよう、就学前の保育所等、学齢期の学童保育、地域社会、区市町村が連携した実践を構築していく一助としてお役に立てることを願います。

# 目 次

第1章 調査実施のあらまし	1
第2章 調査結果の概要	5
1 学童保育の利用決定状況と期待する保育内容	6
2 就学前から学齢期への移行期における課題	8
3 就学前の保育所と学童保育の連携のあり方	10
4 今後の学齢期の子ども・子育て支援のあり方	12
第3章 保育所と学童保育の連携事例	15
4つの事例のポイント	16
事例1 「学齢期を見据えて、保育所で完結しない成長を支援」 のぞみ保育園（目黒区）	18
事例2 「同一施設内の児童館、学童保育と乳児期から自然に連携」 百人町保育園（新宿区）	20
事例3 「保幼小に学童保育を加えた連絡会を通じて学齢期への移行を支 援」 第二小羊チャイルドセンター（三鷹市）	22
事例4 「保護者からの要望に基づく学童保育づくりを出発点に」 八王子ひまわり保育園（八王子市）	24
第4章 提言	27
保育所と学童保育、地域社会との連携による 学齢期の成長を見据えた保育の構築	28

## 資料編

学童保育の利用保護者アンケート集計結果	33
1 調査実施のあらまし	33
2 調査結果	34
(1) 回答のあった学童保育利用保護者の基本属性	34
(2) 学童保育の利用決定状況	36
① 学童保育の利用決定時期	36
② 学童保育の利用開始時期	37
③ 利用している学童保育の希望順位	38
(3) 学童保育に期待する保育内容	39
① 学童保育で大切にしてほしいもの	39
② 学童保育で大切にしてほしいものに対する具体的な考え	42
(4) 学童保育を利用してよかった点	47
(5) 学童保育に対する要望	52
(6) 就学前の保育所と学童保育の連携のあり方	59
① 学童保育に慣れるまでの間に子どもにとって「大変だったこと」	59
② 学童保育に慣れるまでの間に「あってよかった支援」	65
(7) 就学後に引き続き伸ばしてほしいこと	73
(8) 就学前の保育所等と学童保育の情報共有	78
(9) 就学前の保育所等から学童保育に引き継いでほしい情報、そうでは ない情報	80
(10) 今後の学齢期の子ども・子育て支援のあり方	86
① 就学前の保育所等と学童保育の連携に関する提案	86
② 小学校に入ってからの子育て支援の充実についての提案	91
調査実施協力依頼文	97
学童保育の利用保護者アンケート調査票	99
東社協 BOOK ガイド	103
就学前から学齢期への移行期 子ども・子育て支援プロジェクト委員名簿	104



# 第1章 調査実施のあらまし

## 調査実施のあらまし

就学前から学齢期への連続した保育をよりよくするための「学童保育の利用保護者アンケート」

調査対象	都内の学童保育を利用して、かつ保育所に通っていた小学1・2年生の保護者 (各学童保育につき2名を抽出)
配付数	3,138人 (学童保育1,569か所×2人=3,138人)
回答	1,011人(回収率:32.2%)
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学童保育の所在地</li> <li>② 学童保育の設置場所</li> <li>③ 学童保育の運営主体</li> <li>④ 利用児童の学年</li> <li>⑤ 就学前の保育状況</li> <li>⑥ 学童保育の待機期間</li> <li>⑦ 第1希望の学童保育の利用の可否</li> <li>⑧ 学童保育の利用決定時期</li> <li>⑨ 学童保育に期待する保育内容について</li> <li>⑩ 学童保育を利用してよかった点</li> <li>⑪ 学童保育に対する要望</li> <li>⑫ 学童保育に慣れるまでの間に大変だったこと</li> <li>⑬ 学童保育に慣れるまでの間にあってよかった支援</li> <li>⑭ 保育所等から引き続き学齢期に伸ばして行ってほしいこと</li> <li>⑮ 就学前の保育所等と学童保育の情報共有について</li> <li>⑯ 就業前の保育所と学童保育の連携についての提案</li> <li>⑰ 小学校に入ってからの子育て支援の充実についての提案</li> </ul>
実施方法	郵送により学童保育に送付、回答する利用保護者から東社協に直接郵送
実施期間	平成26年10月6日～11月4日

<回答のあった学童保育利用保護者の基本属性>

- (1)学童保育の所在地 区部(55.4%)、市部(40.2%)、町村部(1.5%)
- (2)学童保育の設置場所 校舎内(23.6%)、学校敷地内(校舎外)(27.5%)、児童館内(32.5%)
- (3)学童保育の運営主体 公設公営(60.8%)、社会福祉法人(16.0%)、NPO法人(7.2%)、株式会社(6.5%)、わからない(5.9%)
- (4)利用児童の学年 小学校1年生(53.2%)、小学校2年生(44.4%)
- (5)就学前の保育状況 認可保育所(80.5%)、認定こども園(4.8%)、幼稚園の預かり保育(5.6%)、認証保育所(5.3%)

保育所と学童保育の連携「実践事例ヒアリング調査」

	園名	ヒアリング日時	頁
事例1	「学齢期を見据えて、保育所で完結しない成長を支援」 社会福祉法人愛隣会 のぞみ保育園（目黒区） 【同一法人同一敷地内】	平成26年11月20日	18
事例2	「同一敷地内の児童館、学童保育と乳幼児期から自然に連携」 新宿区立百人町保育園（新宿区） 【別法人同一敷地内】	平成26年12月2日	20
事例3	「保幼小に学童保育を加えた連絡会を通じて学齢期への移行を支援」 社会福祉法人こひつじ会 第二小羊チャイルドセンター （三鷹市） 【別法人隣接学校敷地内】	平成26年12月9日	22
事例4	「保護者からの要望に基づく学童保育づくりを出発点に」 社会福祉法人竜光会 八王子ひまわり保育園 （八王子市） 【同一法人学校敷地内】	平成26年12月17日	24





## 第2章

# 調査結果の概要

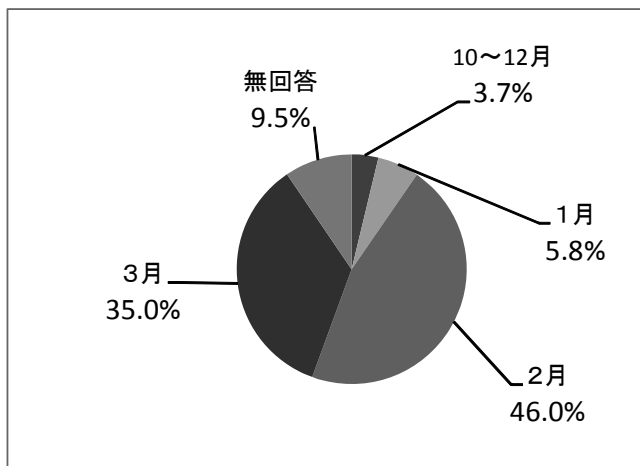
# 学童保育の 利用決定状況と期待する保育内容

## 1 利用決定時期は「2～3月」が8割。

ほとんどの利用保護者が入学前に利用が決まっていたが、その決定時期は「2月」が半数近くで、「3月」が3割。「10～12月」もわずかながらみられた。「第1希望に入れた」が9割近くだが、「複数の選択肢はなかった」も1割となっている。

学童保育の利用保護者 1,011 人の 93.7%が「入学前には利用が決まっていた」と回答して

図1 学童保育の利用決定時期



います。その決定時期は、「2月」が最も多く 46.0%、「3月」が 35.0%となっており、これらを合わせると 81.0%。8割が「2～3月」に決定しています。それよりも早い「1月」も 5.8%、「10～12月」も 3.7%みられました。

今回のアンケート回答者では、「空きが出るのを待って利用できた」は 0.4%で、ほとんどの利用保護者が「すぐに利用できた」と回答しています。

また、「第1希望の学童保育に入れた」が 86.5%となっていますが、「複数の選択肢はなかった」も 10.2%となっています。

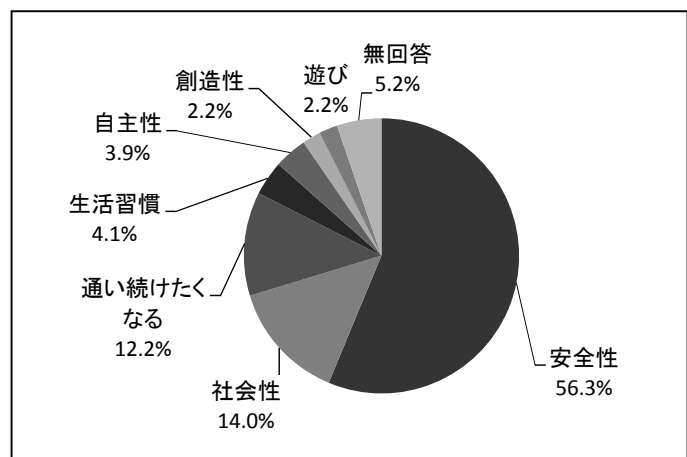
## 2 「安全性」が最も重視されるとともに、学校とは異なる場として期待がある。

学童保育の保育内容には、7割の利用保護者が「親のいない時間の『安全性』」を上位に重視している。災害や防犯の観点からこれが学童保育の特に低学年の高いニーズとなっており、それに次いで「異年齢集団との交流を通じた『社会性』」、「ほっとできて『通い続けられる』」が挙げられている。家庭や学校、就学前の保育とも異なる場としての意義がそこにみられる。

「学童保育で大切にしてほしいもの」を7つの選択肢から選んで順位付けしてもらったところ、1位に選択されたものが最も多かったのは親のいない時間の「安全性」で 56.4%、次いで異年齢集団を通じた「社会性」が 14.1%、ほっとできて「通い続けたい」が 12.0%となっています。

「安全性」は1、2位に挙げた人を合わせると、73.6%にのびります。ほとんどの利用保護者が「安全性」を重視した上で他の項目の順位付けは多様になっていました。

図2 学童保育で大切にしてほしいもの（1位に選択された項目）



「大切にしてほしいもの」について具体的に記載してもらった回答では、多い順に（以下、同じ）下表のようなことが挙げられていました。

表1 学童保育で大切にしてほしいものの具体的な内容（主な回答）

- 震災などを考えると、放課後に大人と一緒にいられる環境がほしい。
- 子どもを狙った事件が絶えないので、見守ってほしい。
- ほっとできる場所であってほしい。
- 一人っ子なので、異年齢集団の中でたくましく育ててほしい。
- 学校では規律の指導がされるので、学童保育では自由に楽しんでほしい。
- 上級生としての力を付けてほしい。
- 家では親子の関わりを大切にしたいので、宿題を学童保育で終わらせて遊ぶ生活習慣をつけてほしい。
- 夏休みは親のいない時間を1日過ごすので、生活習慣を重視したい。
- 親にとっては7つとも大切で順位を付けるのは難しい。全てが必要でバランスが大事だ。

### 3 放課後の生活の場であると同時に、家庭では得にくい経験が得られる。

ほとんどの利用保護者が「学童保育を利用してよかった点」を挙げている。学校を終えて帰る生活の場として安全が確保されると同時に、家庭では得られにくい異年齢との関係や親とは異なる大人との出会いの場となっている。

「学童保育を利用してよかった点」を自由記述で挙げてもらったところ、主に以下のような点が挙げられました。この設問は9割近い利用保護者が具体的に記載しており、学童保育は、親が就労する家庭にとっては重要な存在となっていることがわかります。

- (1) 異年齢との集団生活を体験できる。
- (2) 家庭ではできない遊びを通じて子どもが成長できる。
- (3) 学校を終えて帰る生活の場となっている。
- (4) 親や学校の先生以外の大人との関わりを持つことができる。
- (5) 安全が確保され、安心できる。
- (6) 親同士の関係づくりにもつながっている。

表2 学童保育を利用してよかった点（主な回答）

- 放課後の安全が確保され、子どもの所在がわかっているので、安心して仕事を続けられる。
- 一人っ子なので、年上、年下のお友だちから刺激が得られる。
- 3年生になったらグループリーダーになったり、年齢を超えた人間関係が学べる。
- 行事を通じて仲間と協力する大切さを学んでいる。
- 家庭的な雰囲気があり、「ただいま」と受入れてもらえる。
- 学校とは違い、心から安心できる楽しい場所となっている。
- 学童保育がなければ、家でテレビやゲームで過ごしてしまっていたと思う。
- 小学校に上がり、初めて共働きでない家庭の子と出会った。帰れない寂しさを受入れてくれてくつろげる場所となっている。
- 保育所と学校では先生の関わり方が変わる。その中で、学童保育の先生が安心できる。
- 親とは別の大人からの働きかけがあり、親以外の大人からの視点でアドバイスがもらえる。
- 親ぐるみで仲良くなり、外で会った時にも自然に声をかけあえるようになった。

## 就学前から学齢期への移行期における課題と対応

### 1 「自分の気持ちを表現」「やさしく」「協調性」を伸ばしたい

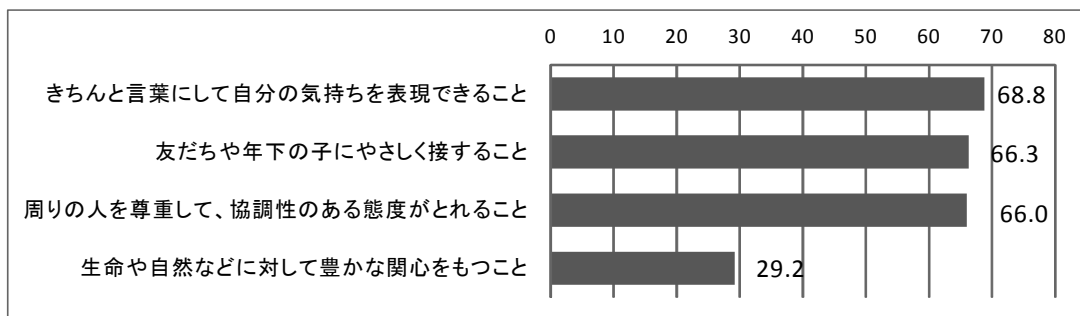
就学前に成長してきたことで「学齢期に引き続き伸ばしてほしいこと」は、「自分の気持ちを表現」「友だちや年下の子にやさしく」「協調性のある態度」をそれぞれ7割の利用保護者が重視している。そして、これらの3つの組み合わせは、ほぼ同じ割合で分散している。

就学前の保育所等を通じて子どもが成長してきたことで、「引き続き学齢期に伸ばしてほしいこと」を訪ねた設問では、「きちんと言葉にして自分の気持ちを表現できる」、「友だちや年下の子にやさしく接すること」、「周りの人を尊重して、協調性のある態度がとれること」の3つをそれぞれ7割近くの利用保護者が重視しています。

複数回答によるこの3つの選び方の組み合わせはほぼ同じ割合に分かれています。就学前に成長を遂げてきたことは子ども一人ひとりに応じて大きく異なり、学齢期にはその一人ひとりに応じた成長を伸ばしていくことが必要となっています。

図3 就学後に引き続き伸ばしてほしいこと

単位：％、複数回答



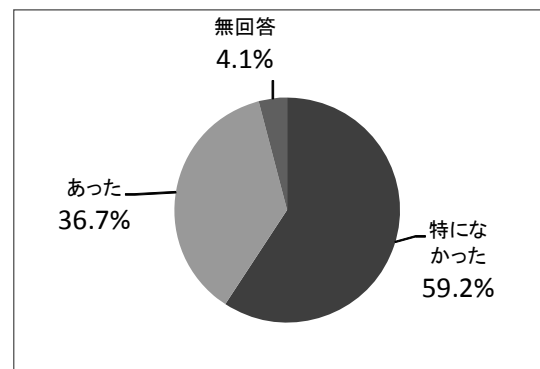
### 2 「保育所との違い」から4割が学童保育に慣れるまでに大変なことがあった。

「学童保育に慣れるまでに『大変なこと』があった」は約4割。「保育所より短い開所時間」「保育所と違う点へのとまどい」「生活の変化に伴う疲れ」「年長から最小学年に移行する中での上級生との関わり」などが挙げられている。

「学童保育に慣れるまでの間に子どもにとって『大変だったこと』は、「特になかった」が59.2%と6割近いものの、「あった」も36.7%となっています。「入学式を迎えるまでの期間」(18.1%)よりも「学校が始まるまでの期間」(25.1%)がやや多くなっています。

「大変だったこと」の具体的な内容は、以下のようなことです。保育所との違いを十分に親子が認識できないまま学齢期を迎えている状況もあり、「行かなければならない」中での支えが必要となっています。

図4 学童保育に慣れるまでに大変だったこと



- (1) 学校生活が始まるだけでも大変なのに、学童保育にも行かなければならない。
- (2) 保育所より開所時間が短く、子どもに負担の大きい時期に送り迎えができない。
- (3) 学童保育がどういうところか想像できず、保育所との違いにとまどった。
- (4) 生活の変化が大きく、子どもが疲れていた。
- (5) 保育所からの引き継ぎがない。
- (6) 上級生との関係がうまくいかない。

表3 学童保育に慣れるまでに大変だったこと（主な回答）

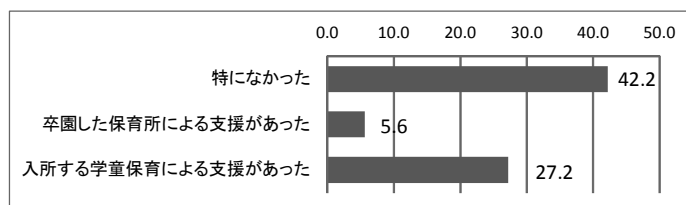
- 開所時間が保育所より遅く、4月1日に親が出勤してから一人で学童保育に行かなければならない。
- 保育所より早く終わるので、一人で家で過ごさなければならない。
- 保育所と違い、自分でやらなくてはならないことが多く疲れていた。
- 年長から最小学年へ変わり、上級生との関わりがうまくできなかった。
- 移動距離が増えて体力的に疲れてしまった。
- 緊張や不安、ストレスで疲れて泣いてしまった。
- なぜ学校が終わって家に帰れる子がいるのか理解できないようだった。
- 保育所からの引き継ぎがないので、子どもの特性を理解してもらうのに時間がかかった。

### 3 就学前から不安を取り除き、就学後に不安に寄り添う支援が必要。

「学童保育に慣れるまでにあってよかった支援」は入所する学童保育が中心に行っているが、在園中から学童保育を体験させたり、卒園後を見据えた保育を行う保育所もみられる。学童保育では、保育所からなだらかに移行する支援を行っている。

「学童保育に慣れるまでにあってよかった支援」は、「卒園した保育所による支援」が5.6%に止まり、「入所する学童保育による支援」が27.2%となっています。その具体的な内容には就学前から不安を取り除く支援、就学後に不安に寄り添う支援がそれぞれ取組まれています。

図5 学童保育に慣れるまでにあってよかった支援  
単位：％、複数回答



#### <保育所による支援>

- (1) 学童保育帰りに卒園した保育所に寄り添ってもらった。
- (2) 年長の頃に卒園後を見据えた保育をしてくれた。
- (3) 在園中に学童保育がどんなところかを体験させてくれた。
- (4) 在園中に同じ学校の上級生や他の保育所の同級生との友だち関係づくりを支援してくれた。
- (5) 小学校だけでなく学童保育にも情報を引き継いでいてくれた。
- (6) 卒園後に保育所を訪れて、先生たちを手伝い、最小学年に移行したギャップの中で改めて役に立つ自分でいられることを支援してくれた。

#### <学童保育による支援>

- (1) しばらくは保育所と同じ時間、開所してくれた。
- (2) 入所前の面談で子どもの特性を把握してくれたり、子どもと指導員で話す時間を作ってくれた。
- (3) 最初は保育所と同じように過ごさせてくれた。
- (4) 上級生たちが付いてくれて、一人帰りの不安に配慮してくれた。
- (5) 上級生が優しく迎えてくれた。
- (6) 職員の気配りや目配りに助けられた。
- (7) 連絡帳で丁寧に様子を伝えてくれた。
- (8) 保育所にいた頃から学童保育の職員が顔を出してくれていたため、安心できた。